

薄れゆく①と②

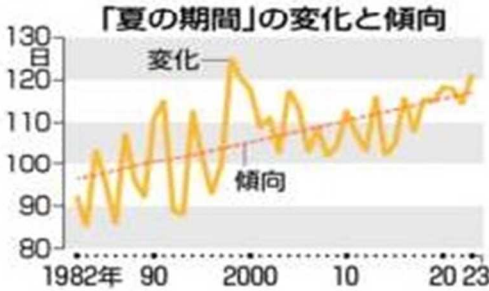
日本の「夏の期間」が1982～2023年の42年間で約3週間長くなっていたことが、三重大グループの研究で11日分かった。「冬の期間」はほぼ変わらず、春と秋が短くなり「二季化」していた。夏の期間は年々、日数が増加傾向にある。グループは「地球温暖化による海面水温の上昇が主な要因だ。温暖化が続けば長い夏と冬の二季化がより進むことになる」と警鐘を鳴らしている。

三重大、42年間分析

温暖化 夏が③長く

研究に当たったのは三重大大学院修士2年の滝川真央さん(24)と立花義裕教授(気象学)ら。気象庁は夏を6～8月と

しており、気温による定義はしていない。滝川さんと立花教授らは、北海道から九州までの海洋を含む範囲を約200区画に分け、気象庁の観測データに基づき年間最高気温42年分の平均値を割り出した。最低気温も同様に算出して、最高値から4分の1の気温を区画ごとの「夏の基準」とした。例えば最高値が20度で最低



値が0度であれば、基準値は15度になる。

さらに42年分の気温を1年ごとに分析。1年間で夏の基準を初めて超えた日を夏の開始日、最後に超えた日を終了日としその間の日数を夏の期間と定義した。約200区画全体の平均で見ると、42年間で開始日は約12・6日早まり、終了日は約8・8日遅くなり、期間は約3週間となる約21・4日延びていた。2023年の夏の日数は6月11日～10月9日の121日間だった。

立花教授によると、以前は大陸から流入する暖かい空気が日本列島周辺の海洋の上空で冷却され、気温は春から夏にかけてゆっくりと上がっていた。しかし、近年は海面水温の上昇により空気が冷やされず、夏が早く到来。海面水温は高い状態が続き、気温が下がりにくく夏の終わりも遅くなっているという。

「冬の期間」も調べたところ、ほぼ変化はなかった。大陸から入り込む強い寒波の影響を受け続けているためと考えられる。

2025年10月12日付1面

* 習っていない漢字のよみがなや難しい用字用語の解説

増加(ぞう・か)	警鐘(けい・しょう) = 危険の予告。警戒のために	冷却(れい・きやく)	上昇(じょう・しょう)
鳴らす鐘のこと。	含(ふく)む	範囲(はん・い)	到来(とう・らい)
分析(ぶん・せき)	超(こ)えた	入り込(こ)む	影響(えい・きょう)
終了(しゅうりょう)	遅(おそ)く		

【問1】 ①・②に当てはまる季節を表す言葉を漢字で書きましょう。

① (春) ② (秋)

【問2】 ③に当てはまる言葉を文章中から抜き出して書きましょう。

(3週間)

【問3】 夏の期間（日数）が年々、増加傾向にある要因を書きましょう。

(地球温暖化による海面水温の上昇。)

【問4】 42年間で、夏の開始日と終了日はどのように変化していましたか。

開始日は (約12.6) 日早まり、 終了日は (約8.8) 日遅くなっていた。

【問5】 「長い夏と冬の二極化がより進むことになる」 ことについて、あなたの考えを書きましょう。